

2. 海洋環境調査研究（経常研究）

2. 1 定期海洋観測

担当者 調査研究部 渡野邊雅道
 共同研究機関 中央水試資源管理部海洋環境G
 道内各水試

(1) 目的

北海道周辺海域の沿岸から沖合にかけての漁場環境を定期的かつ長期的に調査する。海洋の構造及び変動と生産力についての調査研究を発展させる。また、主要資源の漁海況予測の資料として活用する。

(2) 経過の概要

全道調査の一環として北海道南部太平洋海域において2ヶ月に1回の頻度で、海洋調査を実施した。

調査は、10月および6月と12月の一部については函館水試調査船金星丸で、4月、8月、2月および6月と12月の一部については釧路水試調査船北辰丸で実施した。また、4月と6月の調査はホタテラーバ調査と、12月の調査はスケトウダラ調査と、2月の調査はアカガレイ調査、噴火湾環境調査と併せて実施した。

ア 海上調査

調査期間：2011年4月～2012年2月

調査海域：北海道南部太平洋海域（図1）

試験調査船：金星丸（151トン、定格馬力1,300ps）

北辰丸（216トン、定格馬力1,300ps）

調査項目：CTD（シーバード社:SBE-9 plus）による深度0～600m層までの連続水温・塩分観測。改良型ノルパックネット採集（深度150m、500mからの鉛直曳き）。貝毒プランクトン採水（0、10、20、30、40mから1L採水）。海象、気象観測。ADCPによる流向流速観測。

イ 海況速報

調査結果の概要については、中央水試資源管理部海洋環境Gが中心となり、観測調査終了の都度、「海況速報」を年6回発行している。

(3) 得られた結果

平成23年度中央水試事業報告書に詳細な報告があるので、ここでは省略する。

なお、海洋観測結果は海洋調査要報（中央水試発行）として公表される予定である。

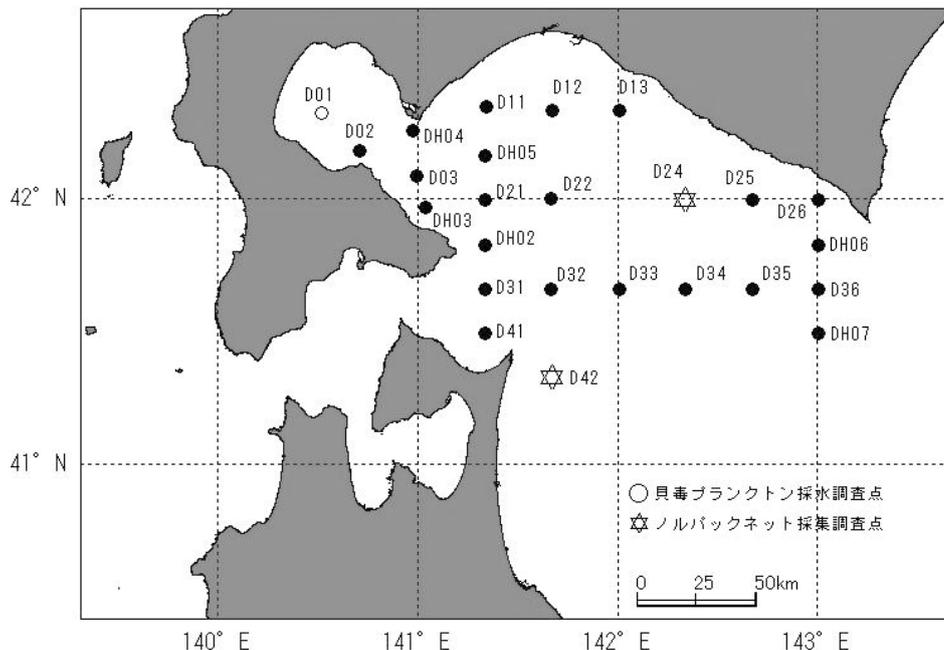


図1 定期海洋観測点図（St. D22、D32は6月と8月のみ実施）